

「40歳を過ぎたら 緑内障検診を」

緑内障とは、視神経が障害されて視野（見える範囲）が狭くなる病気です。一度障害された視神経は元には戻らないため、放っておくと失明する危険性があり、早期発見、早期治療が大切です。

以前は、眼圧（眼の中の圧力・硬さ）が高いことが、緑内障の原因と考えられてきました。ところが、眼圧が正常範囲内であっても、視野が障害される人がいることが分かり「正常眼圧緑内障」と呼ばれています。

2000年から2002年にかけて日本で行われた疫学調査の結果、40歳以上の20人に1人が緑内障であり、緑内障のおよそ70%が「正常眼圧緑内障」であることが

明らかになりました。さらに、緑内障と診断された人の9割は今まで緑内障であることを知らず治療を受けていない人でした。

緑内障は、進行がゆっくりでほとんど自覚症状がありません。また、片目の視野が狭くなっても、もう片方の目が補うためなかなか気づかないことが多いのです。

緑内障は進行性の病気です。一度失われた視野を回復させることは残念ながらできません。しかし、眼圧を下げることで、視野障害の進行を抑えることができます。まず、点眼治療を始め、効果が不十分なら、内服治療、レーザー治療、手術などを行います。

緑内障の早期発見には、眼科での眼圧検査、眼底検査、視野検査が必要です。40歳を過ぎたら一度は眼科を受診することをお勧めします。

文 伊野田眼科クリニック

清水 由花先生